

高知県カツオ県民会議シンポジウムで、ブランド化や消費拡大の討議がなされたが、まず土佐湾を豊かにすることである。明神水産会長の明神照男さんから、「昔の土佐の鰹はうまかった」と聞いたことがある。まず旨いカツオが捕れることを考えねばならない。明神さんは、土佐湾に設置された大型浮き漁礁「黒潮牧場」のため、本来回遊魚であるカツオが、温暖化で、浮き漁礁の周辺は16℃であった冬でも18℃くらいあり、ほぼ周年カツオが浮き漁礁「黒潮牧場」の周縁域で捕れると言われた。温暖化が幸いしている。

カツオを含めて魚を旨くするには、土佐湾に魚の餌を増やすことである。イワシを増やすことである。有明のノリ養殖の生育期にはダムの放水をする。兵庫県ではノリの生育期には排水の水質基準を下げて海水の栄養分を上昇させている。

高知県下の排水水質基準を緩和させて栄養分を多く出す方法は、処理経費の削減にもなる。現在の農薬は有機性であるため、池設池などで分解する。濁りは林業管理を改善することで緩和できる。まだいくつかの土佐湾を豊かする方法があるだろう。「土佐湾を豊かにしよう」という県民、行政からの行動を起こすべきと思った。（土佐湾では、いつでも新鮮なカツオがいる黒潮牧場がある。カツオは、浮き漁礁から10mくらい離れたところに、グルグルと群れを作る。ぜひ、高知にきたら鰹を食べて下さい。

（捕るまではカツオ、捕ってからは鰹と書きます。高知新聞の声広場という投稿欄にこの記事を書きました。）

